

ホタルの里 板城

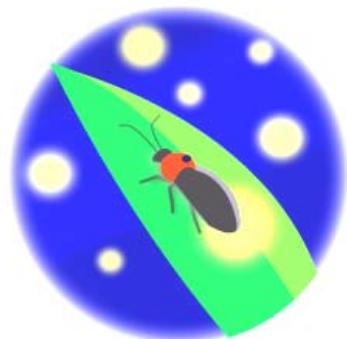
東広島市立板城小学校

わたしたちのふるさと「板城」は昔から、ホタルの里と呼ばれています。

どうして、ホタルの里と呼ばれるようになったのでしょうか。

今から約25年ほど前、板城小学校は、国から「ホタルの里」という指定を受け、や場所などを調査することになったそうです。

板城には、松板川と大谷川という川が流れており、たくさんのホタルが住んでいました。初夏の夜、川のほとりに出てみると、綺麗な黄色い光がたくさん浮かんでいます。



そのホタルについて、板城の子ども達が一生懸命調べ、飼育と放流に取り組んでいたそうです。ホタルを飼育するのは難しく、いろいろな工夫をしながら増やしていたそうです。

そのおかげもあって、板城は今でも「ホタルの里」と呼ばれています。しかし、今、ホタルの数は減少しています。

わたしたちは、総合的な学習の時間で、ホタルの生態や暮らしについて調べました。そして、どうしてホタルが減っているのかについて考えました。



9月、わたしたちは、松板川の様子を観察しに行きました。

水質調査を行うと、上流より下流の方が水が汚れているということがわかりました。生き物は、ドンコやハヤ、カニ、タニシなどたくさんの種類がいたのですが、ホタルのえさになるカワニナはあまり見つかりませんでした。同時にゴミもたくさん落ちていました。



そこで、松板川にホタルが住めるようになるためには、わたしたちに何ができるのかについて話し合い、清掃活動することになりました。

松板川には、思ったよりもたくさんのゴミが落ちており、空き缶やおかしの袋、金属の棒などもありました。



わたしたちは、この活動をきっかけにして、板城の宝である「ホタル」が、昔のようにたくさん見られる松板川にしていきたいです。

